

令和5年度 学校評価表(計画・**中間** 最終)

【 5月初旬・**11月末**・3月初旬 】

学校名(熊野町立熊野中学校)

a 学校教育目標	「前向き (Be positive.)」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	心豊かで確かな学力を備えた教育の推進 地域に開かれ、地域の期待に応え、地域から信頼される学校の創造 地域を愛し、地域から愛され、地域に生きる子どもの育成
-------------	-----------------------	-------------------------	--

評価計画(5月初旬提出)						自己評価					学校関係者評価			n改善方策	
	c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	i 達成値	j=i h/g 達成度	k 結果と課題の説明 (短期経営目標についての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	11月	3月
						10月	2月			イ 適正	ロ 不適正	ハ 分からない			
自己認識、自分の進路選択、表現ができる	【知】 自己表現できる生徒の育成 ～学力の定着と自らを語れる生徒～	○確かな学力の定着 ・標準学力調査で県平均・全国平均以上(各教科)	○全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果及び内容を意識した、日常の授業を展開する。 ・各学年各教科の現状の把握と課題を明確にする。 ・各教科において、課題解決の方策と目標を明確に持つ。	○町学力調査の結果 各教科県・全国平均以上	全国平均	85.2%		85.2%	B	●全国学力・学習状況調査において、県・全国平均ともに下回った。特に自分の考えを根拠を明らかにして書いたり、証明を記述したりするなど表現力に課題がある。 ○基礎基本は定着しつつある。	6		1	・学テの結果分析を基に組織的に取組を進めており、今後の学力向上が期待できる。 ・先日、数学を見させて頂いた時も子供達の学習意欲は高く感じました。 ・以前の学力レベルに戻したいという意味は確認できたので支持します。ただ、自己表現できる生徒の育成という目標に対して、教科で点をとる能力が大きく関わるとは考えにくい。 ・国数英においては、学テの結果の分析から課題を割り出し、改善に向けて引き続き取り組む。 ・それ以外の教科も夏休みの研修以降、課題解決に向けて、基礎基本的な内容の定着を図っているので、取組を継続する。 ・12月、1月実施の町内標準学力調査に向け、また、生徒の基礎学力の定着に向けて、冬休みの課題をしっかりと取り組ませる。	
		○自分を語れる表現力 ・自信をもって、自分について語れる、自分の考えを語れる生徒の割合80%以上。	○各教科・領域等において、自分の考えをもたせる、語らせる、表現させる等の取組の工夫	○表現力に係る生徒の意識調査 (肯定的評価)	80%	74.9%		93.6%	B	○ペアやグループでの交流や1分間スピーチ等、表現の場の設定により徐々に表現できるようになっている。 ●教師が説明しすぎる傾向が依然として見られる。	7		・たとえ、教科のテストが苦手でも、自分の良さは何なのか、人に負けない点はどこかを気付く手助けをするような教育であってほしい。 ・自己表現の内容レベルの向上に取り組めば、自分のやりたいことも明確となり学習への意欲も高まると思う。 ・1分間スピーチなどの取組は、表現力のトレーニングには最適だと思います。 ・4分の1の生徒は、不安があるのではないかと思います。この生徒さんへの対応をお願いします。 ・教科の特性を生かしながら、引き続き、授業内で生徒が表現する場を設定する。その際、教員や生徒同士による肯定的な評価を行う機会を設けて自信がつくようサポートしていく。 ・HRでの自己表現タイムにおいて担任を中心に評価し、表現力を育成していく。 ・3年生の公立高入試に向け、模擬面接の機会を通して、表現の場を設定するとともに自分についてしっかりと語ることができるよう指導する。		
豊かな心	【徳】 ①豊かな心 ◆PPG・レベル5のあいさつ ◆無言移動、無言清掃、靴揃え	○自ら元気なあいさつ	○全体指導、学級指導、個々の指導を意図的につなげる。 ○日常の活動における指導と評価の一体化。	○学校生活での生徒の様子、生徒の意識調査及び地域の声をもとに教師が評価 (肯定的評価)	80%	80.4%		101%	A	○あいさつが自己表現の基本であることに ついて全校で共有することができ、意識は高まっている。あいさつの取組から校歌の取組、合唱の取組等、次につなげる指導ができています。 ●日常的なあいさつに比べ、授業やHRでのあいさつは十分とはいえない。	5	1	1	・あいさつを起点として少しずつレベルアップさせようと粘り強く指導されている。 ・子供達から積極的にあいさつをしてくれ ます。 ・自己評価の指標が当該生徒、教員、保護者の身内によるアンケートのため実状をうつしていると考えには無理があるのではないか。	・あいさつ・無言清掃とも委員会が中心となって前向きに取り組む。委員会の取組が成果につながるようにするためにも、教師が規範となることや取組の意義を伝えることを継続する。 ・取組の成果や課題を明確にするために、生徒、教職員だけでなく保護者や地域の方にも評価していただく。できていることとそうでないことを生徒にわかりやすく伝えながら、指導を継続する。

j評価 A～D 4段階評価
A: 100≦(目標達成)
B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80
D: (できていない)<60